

第54回中学生作文コンクール

都道府県別賞一等

命のお守り

奈良県 橿原市立橿原中学校 二学年

大枝 里奈

「おじいちゃんが入院したよ。明日手術だつて…。」
そう言われて、私はとても心配になりました。私の祖父は、遠い名古屋に住んでいます。小さい頃は、春休み、夏休み、冬休みと、決まって長期滞在をしたものです。ちよつとがんで、声の大きな祖父。私達が泊まりに行くときと大喜びで迎えてくれます。

この前も、急に家族で時間がとれたので、車で名古屋に向かうことになりました。着いた頃にはもう真っ暗。でも、祖父は、何時から外にいたのか分かりませんが車庫の前でニコニコ、立って待っていてくれました。祖母が言うには、待ちきれなくて夕方から、
「散歩に行ってくる。」

と言って出かけたフリをして、道路で待っていたそうです。
そんな優しく、可愛いところのある祖父も、七十歳を超え、色々なところが悪くなってきたようです。

この年齢になると、短期の入院もあればちよつぴり長い入院もあります。年金だけでは大変だと、よく新聞やテレビで報道されています。医療費の高さが問題です。病院の部屋も個室や相部屋、さまざまタイプがあるようです。悲しいことに、お金次第で入院中の生活がかなり違うと想像できます。

さすがに、治療にランクをA、B、Cなどにつけるわけではありませんが、入院中は、最高の治療を願うのは、本人を含め、家族ならあたりまえの心理でしょう。

先程の入院の際、祖母に母が聞いていました。

「大丈夫？色々…。」

祖母は答えました。

「大丈夫。保険も入っていたから使えるし…。やっぱり入っていてよかったなあと今になって思うわよ。若い時は気づかないし、かけるお金にも余裕がない、なんて言って入らない人もいるけれど、安心して治療に専念するためにも入っとかないとねえ。」

母の横で私はなるほど…。とうなずきながら聞いていました。

保険は、ケガや病気の後には入れません。前もって入っていてこそ、何かがあったときに助けてもらえるお守りです。

第54回中学生作文コンクール

私は、この夏休みに約二週間、オーストラリアへ留学します。海外へ行く際、もちろん保険に入って行きます。説明会でさまざまな話を聞きましたが、海外で病気やケガをすると大変なことになると言います。治療や手術、さらには入院となれば莫大な金額が請求されることもあり、払うに払えない、帰るに帰れない、という事態を招くそうです。

また、遭難するようなことがあると、搜索費用もかかり、保険に入っていないと、命すらあきらめる決断をせざるをえなくなります。

まさか自分が、自分に限ってそんなことは、という油断や軽い気持ちでいることは、残念な結果を生むこともあるということです。

以前、小さなケガですが、治療の際、入っていた保険に助けもらったことがあります。少しでも保険を利用できるということは、とても心強く思った瞬間でした。

私達と保険。まだ若い私達には、無縁のようでいて、実は、ケガや事故で利用することが意外とあると思います。

生きている限り、このお守りは一人に一つは持つべきものだと思えます。